

財 政 上 の 効 果

ここでは広域化により、高機能消防指令センターや特殊車両等の整備をはじめ、国からの財政支援の活用など、財政上の効果を紹介します。

(1) 特殊資機材等の効率的な整備

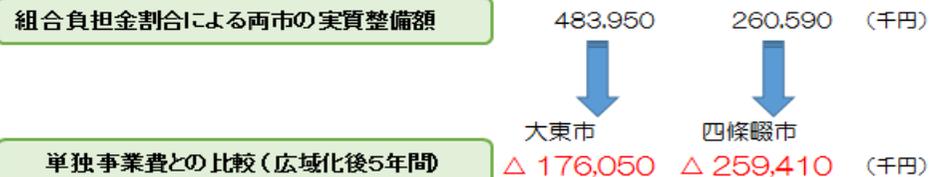
特殊資器材や高度な設備の整備は大きな財政負担が伴いますが、広域化することで両市での重複投資を避けることができ、効率的な整備が可能となりました。両市が単独で整備した場合と比較して、大東市で176,050千円、四條畷市で259,410千円を軽減することができました。

◎特殊資機材等の効率的な整備 (千円)

年度	名称	大東市(単独) 整備費	四條畷市(単独) 整備費	大東四條畷消防組合 整備費
25	通信指令施設(単独整備) 高機能消防指令センター	200,000		204,540
26	消防救急デジタル無線設備(単独整備) 消防救急デジタル無線設備	270,000	320,000	345,600
27				
28	はしご付消防自動車	190,000		194,400
29				
30	通信指令施設(単独整備)		200,000	
	合 計	660,000	520,000	744,540



《高機能消防指令センター》



◎ 高機能消防指令センターや消防救急デジタル無線の重複整備を避けることができ、それぞれの市が単独で事業を実施した場合と比較して、大幅な経費削減となりました。

◎ はしご付消防自動車や化学消防自動車等の特殊車両を、両市共同で整備することにより、少ない費用負担で効果的な運用を確保できます。

(2) 広域化による財政支援の活用

消防の広域化が条件となっている国の補助金などの有利な財政支援を活用することが可能となり、少ない費用負担で高額な特殊資機材等を整備することができました。

名称	種別	措置額(千円)	主な内容
消防防災施設整備費補助金	補助金	49,629	高機能消防指令センターの整備
※ 補助対象となる基準額の1/3を補助			
消防広域化臨時経費	特別交付税	72,850	広域化の初期整備に必要な物品の購入・業務委託等
※ 広域化に伴い臨時に増加する経費について、一般財源の1/2の額を算入			
緊急防災・減災事業債	地方債	392,767	消防救急デジタル無線・はしご車・消防庁舎改修等の広域化関連事業
※ 起債充当率は100% 元利償還金について、その70%を基準財政需要額に算入			
その他の交付金	交付金	135,348	高機能消防指令センターの整備
※ 平成25年に特別の措置として創設された「地域の元気臨時交付金」を活用			



はしご付消防自動車（平成28年度に財政支援を受けて購入）

緊急防災・減災事業債にて約2億円で購入。このうち、70%の約1.4億円が交付税措置として返ってくるため、実質負担額は約6,000万円となりました。
 （大東市の負担額：約3,900万円、四條畷市の負担額：約2,100万円）

広域化により必要となった各種事業費のうち、71パーセントを占める額に、様々な財政支援を充当することができました。
 （平成25年度から平成29年度の間）



【整備した資機材等の一例】
はしご車



最大地上高 35mで、はしご先端部分が屈折する機能を有しておりフェンス等の障害物を避けて接近することができ、これまで以上にスムーズな救助活動が行えます。

高所作業車



最大地上高 17mで、車両サイズがコンパクトであり、はしご車が進入できない狭い道路でも走行でき、ほぼ全ての管轄内で高所での活動が可能となりました。

災害支援車



各種災害活動における後方支援を行うための車両で、隊員及び資機材の搬送を担います。また、平時には火災予防啓発など多目的に活用します。

高機能消防指令センター



各種災害に応じて出場車両を統制しています。大規模災害時には、最大6席に拡張して対応することが可能です。

車両端末装置



車両の動態や位置情報を指令センターに送信する装置で、各車両の位置情報を把握しているセンターから出場指令が送信されます。

移動式空気充填機



大東署及び四條畷署に配備していた空気充填機を移動式1台に効率化。空気呼吸器への充填が火災現場でも可能になりました。

(3) 経常的な経費の削減

広域化によるスケールメリットを活かした効率的な組織運営ができたことにより、広域前に比べ、経常的な経費に充当した一般財源を比較するとマイナス0.99%の財政効果が現れました。

また、消防のことを誰よりも良く知る消防職員が予算を査定することで、効率的・効果的な予算編成が行えています。

消防広域化前後の経常経費充当一般財源の状況(H26年度決算)

年度	大東市			四條畷市			2市合計			消防組合		
	23	24	25	23	24	25	23	24	25	26(決算)	うち経常一財	
決算額	1,062,539	969,280	1,188,519	573,782	491,156	534,626	1,636,321	1,460,436	1,723,145	2,103,455	1,595,469	
消防費以外計上分	—	—	—	—	—	—	—	—	—	141,465	141,465	
臨時的経費	計	126,840	34,415	258,910	35,919	0	27,725	162,759	34,415	286,635	477,509	0
	内訳	消防力整備	126,840	34,415	1,307	35,919	—	27,725	—	—	無線整備	無線整備
		広域準備事務	—	—	257,603	—	—	—	—	—	345,600	0
経常経費	935,699	934,865	929,609	537,863	491,156	506,901	1,473,562	1,426,021	1,436,510	1,484,481	1,454,004	
手数料	1,117	1,305	1,215	132	233	596	—	—	—	—	—	
国庫補助金	—	—	—	1,023	—	—	—	—	—	—	—	
府補助金	1,160	1,811	2,840	729	1,549	1,580	—	—	—	—	—	
その他	59	2,677	324	21	—	—	—	—	—	—	—	
経常経費充当特財	2,336	5,793	4,379	1,905	1,782	2,176	4,241	7,575	6,555	—	—	
過去3年の平均経常一財	929,222			510,019			1,439,241			—		

大東市消防本部	定数	実員	→	組合消防	定数	実員
四條畷市消防本部	120	115		189	189	

消防費以外計上分等	消防組合	
	26(決算)	うち経常一財
退職手当	122,734	122,734
児童手当	13,395	13,395
公務災害補償負担金	2,361	2,361
職員健康診断	2,262	2,262
市有物件保険料	713	713
合計	141,465	141,465

組合26年度経常一財 1,454,004 - 両市3年平均 1,439,241 - H26人勸実施必要額試算値 29,103 = **△ 14,340** △ 0.99%